

R 8年度子どもの学びをつなぐICT活用推進事業

現状・課題

- ・県内の中山間地域等の小規模中学校では免許外教科担任が授業を行っている。そのような学校の子どもたちに一定程度の教育を保障する必要がある。
- ・中山間地域の小規模中学校等を対象にした免許外教科担任を支援する遠隔学習は、これまで13市町村で実施しており、今後も支援が求められている。
- ・小学校のプログラミング教育において、専門性が必要となるため学習内容の充実に至っていない。
- ・中山間地域等の小規模小中学校では、児童生徒数の減少により、授業において協働的な学びを十分に展開することが難しい。

取組内容

中山間地域等の小規模校の個別最適な学びと協働的な学びを支援する遠隔学習

● プログラミング教育の横展開

- ・遠隔プログラミング学習の授業公開や研修コンテンツの充実

● 中学校プログラミング教育の充実

- ・中学技術のプログラミングの授業において、専門家が免許外教科担任のいる学校に双方向型の講義を実施
- ・免許外教科担任でも実施できる教材を活用
- ・県ICT教育サポーターによる支援

● 小学校プログラミング教育の充実

- ・高度な専門性を必要とするプログラミングの授業において、専門家が児童に双方向型の講義を実施
- ・県ICT教育サポーターによる支援

● 学校間連携による遠隔学習の実施

- ・小規模校等において、他校と交流する遠隔学習を実施し、協働的な学びを実現
- ・県ICT教育サポーターによる支援



効果

- ・教員のICT活用指導力の向上
- ・プログラミング教育の充実
- ・児童生徒の情報活用能力の向上

本事業の到達点

市町村への遠隔によるプログラミング教育の実施を通じて、市町村が自前で遠隔学習を継続・発展させるための運営スキルを習得する。